ひびき
Gifu Symphony Orchestra
We Love Music
公益社団法人　岐阜県交響楽団

〒501-3133　岐阜市芥見南山3丁目7の10
TEL〈058〉244－0150　FAX 244－0151
ホームページ http://gikyo.ktroad.jp/

記憶よ、よみがえれ

岐阜県交響楽団
理事　山本　耕

「音楽は思い出させるから嫌いだ」。スペインの天才画家サルバトール・ダリの言葉だったと思うのだが、どうしても出典が見付けられない。

確かに音楽は、人の記憶を呼び覚ます劇的な効果をもたらすことがある。それは歌詞のある歌謡曲やポピュラーではなく、クラシックやジャズの旋律を聴いているとき、ふいに起きるようだ。

一方、聴覚だけでなく、人の五感のうちの嗅覚も、同じような効果をもたらすことがある。

フランスの作家マルセル・プルーストの「失われた時を求めて」は、世界でいちばん長い小説と言われる。その第一篇「スワン家のほうへ」で、主人公が紅茶に浸したマドレーヌを口にしようとしたとき、幼い日の日曜日の朝のイメージがよみがえってくる。

あまりにも有名なエピソードで、「プルースト効果」または「プルースト現象」と呼ばれている。ある香りをかいだとき、それと結び付いた過去の出来事が突然鮮やかによみがえる現象とされる。

たとえば降り始めた雨が、アスファルトをぽつりぽつりと叩くときの空気のにおい。遠い少年の日、学校から帰る道々の情景がよみがえったりする。

嫌な記憶ではなく、懐かしい思い出。ノスタルジー（郷愁）と呼んでいいのかもしれない。

では視覚はどうだろうか。ただ周囲を見ているだけでは、記憶への劇的作用は望み薄で、もう一過程必要なようだ。

ロシアからの亡命作家ウラジミール・ナボコフの短編「初恋」を例に挙げよう。ナボコフは中年男が少女を偏愛する小説「ロリータ」で有名だが、この「初恋」では、フランスでの遠い少年時代を回想する。スペインに近い別荘地で、同い年の少女コレットに淡い恋心を抱いた夏の、さまざまなことを思い出す。だがどうしても少女の愛犬の名前が出てこない。

あの頃は、飾りの部分に小さなガラスの「のぞき穴」のあるペン軸を大切にしていた。その穴に片目にぴったりと付け、もう一方の目を閉じれば、入り江や灯台が写真のように浮かんできた。あの時の不思議な感覚を呼び起こしてみる。やがて、夕暮れの浜辺で愛犬の名前を呼ぶ少女の声が、遠くから聞こえてきた。「フロス、フロス、フロス」と。

２０２１年３月、長良川国際会議場で催された岐響ファミリーコンサート。歌劇「フィガロの結婚」序曲が演奏された。リラックスして聴いていると、ふいに遠い日の懐かしい情景が浮かんできた。目を閉じて、不思議な感覚に浸ってみる。しばしの幸せな時間だった。

残念ながら音楽が記憶にもたらす効果には、「プルースト現象」のような呼び方はないようだ。「モーツァルト現象」とか「ドビュッシー効果」のように名付けられていれば、もっと認知されると思うのだが。

それで、どんな情景が浮かんだのかって？　それは内緒にしておこう。

（岐阜放送代表取締役社長）

喜古恵理香先生インタビュー

6月1日、日曜日の集中練習の後、喜古先生に今回の演奏会のこと等について、インタビューをいたしました。

本日はよろしくお願いいたします。まずは先生の自己紹介といたしまして、先生が指揮をはじめられたきっかけをお話いただけますか？

小さい頃は、母親が私をピアニストにならせたいっていうこともあって、ピアノから始まりました。ソルフェージュ教室にも通っていましたね。また、小学生の頃には少しだけヴァイオリンもやってまして、音楽はそうやって昔から趣味にはなっていっていました。

中学高校に入った時にはその学校に管弦楽部があって、小さい頃ヴァイオリンもやったことがあったから、その管弦楽部に入りました。そこではもちろんヴァイオリンをちゃんと頑張って弾いていました。

ところが高校二年生の時、そこで初めて指揮をやる機会がが訪れたんです。その管弦楽部では外部から指揮を呼ばず、部員の中から指揮者を出していたんですね。ただその時は指揮者をやりたい人がいなくて、ヴァイオリンの人数が部の中では一番人多かったこともあって、ヴァイオリンの中から指揮者を一人出して、っていことになりました。周りには「私コンミスやりたい！」っていう子や「セカンドのトップやりたい！」っていう子たちで、指揮者やりたいっていう子がいなくて、「しょうがないから私が指揮やるか…」っていうことでその時は指揮をすることになりました。これ、指揮を始めた理由としては消極的な理由になっちゃうのでなであまり書かなくてもいいんですけど(笑)

▲岐響練習場での喜古先生

今では本当にみんなに嘘でしょって言われるんですけど。本当にその頃は恥ずかしがり屋で、声も全然出なくて。人前で喋るの本当に苦手だったんですよ。何が楽しくてこんなにやらなきゃいけないんだろうって。本当に指揮するのは嫌だったんです。

でも結局でもやらなきゃいけないって思った時に、ある変化がありました。

ヴァイオリンを弾いていた時にはあまりスコアとかちゃんと見てなかったんですよ。とにかく聞いて練習することで一生懸命。でも指揮者として初めてスコアを曲りなりにちゃんと読んでいくとそれがすごく面白くて。しかもそれがリハーサルの時に音が組み立っていくじゃないですか。自分がスコアで二次元で見ていたものが組み立っていくこと。それが少し練習していったら響きが良くなっていったとか。この構築作業がすごく面白いなって。本当に建物をオケの仲間と一緒に建てているみたいな感じで。

そんな指揮の面白さが、その後指揮をずっと続けていきたいなって思ったきっかけなんですね。

ちなみに、その時初めて振ったのがドヴォルザークの「新世界より」でしたね。第二楽章の最初の金管の部分が振るの結構難しいんですけど、その時トレーナーの先生に「結構上手いじゃん」って言われたのを鵜呑みにして、「いけるかも！」みたいな(笑)

その後音大に行きたいと思うようにもなって、大学では指揮科へ進みました。

本日が2回目の岐響へのご来団ですが、これまで練習をしていただき、岐響への印象はいかがでしょうか？

本当にまず思ったのが、とてもポジティブな空気が流れていて、それがすごくいいことだ思いました。練習中はもちろんなのですが、休憩中とかどの時間もやっぱり活気に 溢れてるというか。クリエイティブなものが 生まれる空間というのは、やっぱりそういう雰囲気であるところからが多いと思うので、それは本当にいいことだと思いますね。そして素敵な人が集まってるんだなっていうのはすごく感じましたね。音楽を奏でている時も、もちろんご自分でも楽しんではいるけど、みんなと合わせるのを楽しくやっているっていうのがすごく伝わってきましたし、オーケストラを楽しんでいる方が結構多いなっていうのがすごくいい印象として残ってますね。

ありがとうございます。では、今回の演奏会のプログラムについて、先生からの視点でお話いただけますでしょうか。

チャイコフスキー　交響曲第４番

この曲をチャイコフスキー作曲した時が37歳で、それが今の私とほぼ同じ年なんですね。もちろん昔から知っている曲ではあるし、学生の時とかも勉強してましたけど、その時はまだ20代の頃でした。今回また改めてこの曲を指揮するにあたって、もう一度スコアを一生懸命読み込んだ時、やっぱり今になってみて「37歳だ、なんか分かる！」みたいに理解できるところも、とてもおこがましいかもしれないけど、やっぱりあるのかなと思いました。20代の時とかでは気づかなかったことは、やはりありますね。

チャイゴスキーの交響曲は、やはり４番以降の曲が多く演奏されますよね。１、２、３番はなかなか演奏される機会が少なくて、１番まだたまに演奏されますけど、２番、３番はほとんど演奏されません。第４番のそれまでの交響曲との違いですが、やっぱりチャイコフスキーは交響曲第４番を書いた頃に本当にいろいろな大変な時期に来ていたんだと思います。本当にチャイコフスキーが大変だった時期に書いた交響曲だからこそ、やはりあのような名曲を生み出したと思うのです。しかもこの曲にポジティブな雰囲気、パワーがあると思っています。

そういう意味では、先程お話ししました「岐響のポジティブな雰囲気」の中でこの曲を演奏出来ることが、私にとっては凄く良かったなと思っています。岐響の皆さんといいセッションがしたいですね。

ラヴェル　古風なメヌエット

この曲が候補としてそちらから出していただいた時に、せっかくだからこの曲のメヌエットの部分を次のバレエ音楽である「眠りの森の美女」につながるような感じでいけたらいいなと思いました。この曲はフランスのメヌエットで、後半の２曲はまた違って三種三様の音楽の色を出していけたらいいなと。とても聞きやすい曲でもあります。

眠りの森の美女

交響曲第４番と同じ作曲家ですけどでも全然時期も違うし 音楽の形態も違うので なんかこの色が 変わればいいなと思っています。

チャイコフスキーの３大バレエ、「白鳥の湖」「眠りの森の美女」「くるみ割人形」、この３つの中で私もほんとに一番好きな曲でもあります。やっぱりこの曲は完成されていて、チャイコスキー自身もすごくこれは好きだと自分でも自信を持っていました。この曲が作曲されたころには、交響曲第４番の時とも違う作曲家としての位置が確立されていて、結構精神的にも経済的にも安定していた時の作品です。なんというか、ほんとに他の人には真似できない響きとかメロディとかチャイゴスキーの一番いいとこが集まった曲だと思っています。有名なワルツなど、皆さんもよく知っているでしょうし、それも楽しみにしていただければなと思います。

最後に、先生が普段音楽を作られる時に大切になさっていることをお伺い出来ますか？

その時々によって何を１番大切に思うかは変わりますが、必ず心掛けていることはオーケストラとコミュニケーションを取ることです。作品に対して私の中に理想形やイメージがありそれをお伝えすることは勿論ですが、オーケストラ、つまり演奏者各々にも同じように理想やイメージがあるのでその発信を取りこぼさないように耳を使ってリハーサルし、音楽を構築するようにしています。どのオーケストラにも歴史や色があって、それを尊重しつつ作曲者へのリスペクトのもと、共演するそれぞれのオーケストラと最高の演奏ができるよう心掛けています。

また、今回の演奏会で同じように大事にしているのは音色と響きです。テーマ性の高いプログラムなのでテーマが明確に表現できるよう三曲三様の音色と響きを歴史ある岐阜県交響楽団の皆さんと追求できればと思っています。

本日は練習後のお疲れの中、ありがとうございました。

最近の演奏会より

岐響ファミリーコンサート（3月16日）
岐響リラックスコンサート（4月29日）

'25岐響ファミリーコンサート ファミリーコンサート企画　川口　芳夫

コンサートに欠かせない存在、そう、それは指揮者です。岐響ファミリーコンサートにとって、指揮者のトークや演出がその時々のコンサートの出来栄えを左右すると言っても過言ではありません。岐響初来団の松元宏康先生と打ち合わせを重ねていく中で、お客様に新しい音楽の発見や感動を伝えたい！という思いから、岐響初となる音楽とお笑いのコラボレーションを実現させようと考えました。

そして、松元先生が組むお笑いコンビ『ジャジャジャジャーン』の相方、「さんしろう吹奏楽部」さんを新たに司会者としてお招きしました。当日は、司会者と指揮者との軽快なトークや漫才が繰り広げられ、笑い声の絶えない楽しいコンサートを実現させることができました。この時ばかりは、実はお客様だけではなく、私たち団員も終始笑顔で演奏を行うことができ、これまでと違った演奏会を私たちも体験できたことは、とても貴重なものでした。

終演後のアンケートにも「演奏だけでなく、トークも楽しかった」「指揮者と司会者のトークにライブ感を感じました」などなど、これまでのコンサートとは違った新たな評価をいただくことができました。

さてさて、実は来年のコンサートも、今回と同じ松元先生が指揮を振ります。さらにパワーアップしたコンサートを企画しています。ぜひとも楽しみにしていてください。

▲松元先生とさんしろう吹奏楽部さん

ファミリーコンサートを企画して

さて、私が岐響ファミリーコンサートを担当してもう10年以上となります。

このコンサートの目的としては、岐響が定期演奏会で演奏するクラシック中心ではなく、多くの人たち、特に子どもたちにも楽しんでもらえる曲をお届けすることを大切にしています。そして、そのようなコンサートだからこそ、企画する責任をとても強く感じています。

自分がこの担当として大切にしてきたことは、お客様にただ楽しんでもらうのではなく、お客様一人一人に『新しい発見』をしていただくことです。

例えば、今ではお馴染みの指揮者コーナーですが、この指揮者コーナーに代わって、事前に応募したちびっこバイオリニストと一緒に演奏するジョイントコンサートを企画しました。子どもたちと一緒に「ガボット」を演奏し、楽しそうに弾く子どもたちと奏でる音色は、来場された方々にも指揮者コーナーとは違う新しい発見を楽しんでいただけたと思います。

また、コンサートのテーマ（タイトル）づくりにも苦労をしてきました。

岐阜由来の女性のアーティストに注目した「岐阜嬢」というプログラムを企画したことがあります。岐阜はファッション都市ともいわれることから、岐阜出身の服飾デザイナーである杉沢和子さんがデザインした服を用い、クラシック音楽に乗せてファッションショーを行ったこともあります。会場には、これまで見たこともないきらびやかなライティングや最新のファッションに身を包むモデルの方々が同じ舞台に立ち、新しいコンサートの形を実現できたと感じています。

現在は、便利な世の中となり、スマホを始めとしたデジタルコンテンツとしての音楽が普及し、なかなか会場に足を運んで音楽を聴くという機会が減ってきているかもしれません。その中で私たち岐響がもつ責任としては、アナログともいえる生の音楽の良さを体験し、新しい感動をお客様に発見していただくものと感じています。

これからも進化し、新しいことに挑戦し続ける、皆様に愛される岐響でありたいと思います。

岐響ファミリーコンサート「楽器ふれあい体験」について

FI　坂　淳子

今年のファミリーコンサートでは、初めて「楽器ふれあい体験」が企画されました。

２０２４年12月に岐阜ロータリークラブ90周年事業として、岐阜盲学校の皆さま向けにコンサートをさせていただいた折、実際に楽器に触れて手触りや大きさ重さなどを感じていただくという試みがありました。その際、生徒さんや卒業生さん方が大変興味を持って楽器に触れてくださいました。

私たちにとってもこういった試みは初のことであり不安も大きかったですが、皆さんが実際に楽器に触れることで初めてわかる驚きや発見をされたり、嬉しそうに持ったり弾いたりと生き生きとした姿を目の当たりにし、大変素晴らしい経験となりました。そこで、３月に控えていた岐響ファミリーコンサートでも企画してやってみようということになりました。

当日は開演前の45分間という短い時間ではありましたが、ロビーにて小学生から18歳までのお子様を対象に、13種類の楽器ごとのブースで、実際に持ってみたり、弾いたり、吹いたり、鳴らしてみたり、と楽器に触れあっていただきました。

団員お手製の「ふれあいたいけんマップ」を手に、どの楽器を体験しようかなと色々見て回る子、入場したら一目散にお目当ての楽器のブースに走る子、じっと眺めている子に団員がおいでと手招きしちょっぴり照れながらでも嬉しそうに楽器を手にする子、ふーっと息を入れた瞬間音が鳴ったとたんにパッと笑顔が広がる子、などなど当日は大勢のお子様にご参加いただき、大変な賑わいとなりました。

サポート役の団員もお客様とじかに触れあう貴重な体験ができ、楽しく素敵な時間となりました。

この「楽器ふれあい体験」が楽器や音楽、オーケストラに興味を持つきっかけとなりましたら幸いです。

▲楽器ふれあい体験の様子

'25ファミリーコンサートアンケートより

- いろんな楽器やしきしゃコーナーが楽しかったです。とくに、こんさーとがはじまる前のがっきたいけんのファゴットの「ピァ」とひくのが一番むずかしかったです。またやってみたいです。（10才以下）

▲人気の指揮者コーナー

- 毎回楽しいコンサートですが、特に今回は司会者、指揮者の方が面白く、すばらしい演奏が更に引き立ちました。　色々なテーマで毎回楽しみにしていますが、改めてＮＨＫ大河の曲を一気に聞けたのでとても良かったです。（40才代）

- 楽器を演奏している人がとてもかっこよく見え、こんなに自分を感動させてくれる楽器もかっこよかった!!（楽器愛がわいた）　吹奏部に入ろうかなーとまじめに思った。（次高校生なので!）（20才以下）

- 毎年、ファミリーコンサートが楽しみで、いつも満喫しています。毎年演奏レベルが上がっているようで来て良かった、と大満足で帰れます。
楽器体験や指揮者コーナーなど、趣向をこらした演出もファミリーコンサートならではで、楽しめました。また来ます。（60才代）

- すばらしい演奏、楽しいトーク、時がとても短く感じました。
感動と笑顔いっぱいでした。心にひびく演奏、聞きなじみのある曲ばかりで、情景が浮かび、心がウキウキしました。（60才代）

岐響リラックスコンサート
ぎふワールド・ローズガーデン

Perc　山下彩香

青い絨毯のように広がるネモフィラ畑と、咲き始めたバラの香りに包まれながら、4月29日にぎふワールド・ローズガーデンにて「岐響リラックスコンサート」を開催しました。春らしい真っ青な空も広がり、公園内にはバラを楽しまれている方や芝生広場で遊ぶ親子連れなど様々なお客様が多く訪れていました。

▲心地よい雰囲気となった会場の様子

今年も野村證券(株)様にご協賛いただき、「癒しと健康」をテーマに様々な曲をお届けしました。

その中でも私の心に残った2曲についてお伝えしたいと思います。

♪ぼよよん行進曲♪

NHK「おかあさんといっしょ」で発表されたこの曲は、歌詞が素晴らしく、大人が泣ける曲としても有名です。

コンサートの話から話題がそれますが、岐響には託児室があり、私も含めて子どもを連れてオーケストラの練習に来ている団員がいます。いろんな学校、学年の仲間が集まっていますが、いつも仲良くゲームをしたり最近では近くの川でザリガニを捕まえたりして遊んでいます。今回の演奏会をもっと楽しく盛り上げたいなと思い、子どもたちに「この曲をみんなの前で踊ってみる?」と提案したところ、「やりたい!」と素敵な返事が返ってきました。岐響の事務局の方にも許可をいただき、さっそく各家庭で動画を見ながら猛特訓!(私は一曲歌って踊るとへとへとでした。歌のお姉さんたちの偉大さを痛感…)当日も開演前に集まってリハーサルをしました。

そしていよいよ本番。満席の会場の中、演奏と子どもたちの踊りが始まりました。すると、客席からたくさんの手拍子が聞こえてきました。温かい会場の雰囲気のお力添えがあり、子どもたちも笑顔で「ぼよよよ～ん」とジャンプをして楽しく踊ることができました。「どんな大変なことがあっても私たちには乗り越える力がある!」というこの曲がもつパワーをお届けすることができたのではないかと思います。

♪ラジオ体操♪

オーケストラの演奏に合わせてラジオ体操をしようという企画も3年目を迎え、もはや定番となりました。先ほど登場した子ども達と体操のお兄さん(?)が掛け声と共に舞台へ登場し、いよいよ体操開始です。おなじみの前奏が流れ、まずは背伸びの運動。会場いっぱいの何百人というお客様が一斉に手を上げ、音楽に合わせて体操をしている光景はまさに壮観でした。私も演奏しながら時々体操をしていたのですが、春の爽やかな風が吹く公園で、みんなと一緒に体を動かすことはとても気持ちがよかったです。子ども達も、「たくさんの人がいて緊張したけど、みんなの動きが揃っていてかっこよかったし、夏休みの時より楽しかった。」と言っていました。

▲ラジオ体操では岐響キッズ達が大活躍！

トランペットのファンファーレから始まり、「ふるさと」の大合唱で幕を閉じた今回のリラックスコンサート。客席に座って聴いてくださった方も、花畑を散歩しながら聴いてくださった方も、素敵な花と音楽でちょっぴりの「癒し」を感じていただけたのなら幸せです。

岐響ジュニアオーケストラ 第39回 定期演奏会（4月27日）を終えて

私に影響を与えてくれたのは…

岐響ジュニアオーケストラ　Va　早崎響奈

今回の岐響ジュニアオーケストラの定期演奏会を一言で表すと、「とても楽しかった」です。私は今回で本番を迎えるのが2回目でしたが、約1年かけて曲をつくり上げていく中で、本当に多くのことを経験しました。たとえ1年という時間があっても、取り組んだ曲は非常に難しく、最初は弾くだけで精一杯でした。特に初めて挑戦するような楽曲は、思うように弾けず苦労の連続でしたが、パートの先生のご指導やオーケストラ全体での合奏を重ねていくうちに、最初は「こんなの無理だ」と思っていた箇所も徐々に弾けるようになり、大きな達成感を得ることができました。

今振り返ると、そうした環境の中で音楽に取り組めたことはとても恵まれていたのだと実感しています。そして何より、自分に一番大きな影響を与えてくれたのは、オーケストラの仲間たちです。一緒に時間を過ごす中で仲良くなり、以前よりもオケの楽しさを感じられるようになりました。練習に行くのが楽しみになり、このような仲間と音楽を共有できることが、私の音楽人生の支えになっています。

今回の演奏会では、ソリストとして清水陽介さんが出演してくださいました。演奏している後ろ姿を見ながら音を聴いて、その格好良さにとても感動しました。ただ、ソリストとオーケストラを合わせるのは予想以上に難しく、「しっかり見る」「よく聴く」ことの大切さを改めて学びました。コンチェルトでのオーケストラの役割の難しさを、身をもって感じた経験でした。

来年のプログラムには、さらに難しい曲やヴァイオリン協奏曲も含まれています。今年の学びを生かし、より良い演奏につなげられるよう仲間と力を合わせて頑張りたいです。そして、自分自身成長できるようにしたいです。

ありがとう先輩！

岐響ジュニアオーケストラ　団長　図司義勝

第39回定期演奏会は先輩たちに力を貸していただきました。

一人目の先輩は清水陽介さん（チェロ）です。

「ハンガリー留学から今年戻って来る！」というお話を聞き、早速ソリストとして岐響ジュニアで演奏いただくことをお願いしました。新進気鋭のチェリストとして、プロのオーケストラと共演している清水陽介さん…今しかないかなと思いつつお願いし、快諾をいただきました。大変うれしく思った反面、無茶なお願いをしてしまったかもしれないと後ろめたさもありました。清水さんは、練習の中でも「ここで表現したいものは…そのために…」多くのことを現団員に語ってくださいました。

二人目の先輩は北島明翔さん（名フィル、コントラバス）です。

今回の定期演奏会では、機会を見て事前に指導いただきました。本番の演奏会でも一緒に演奏いただけました。オーケストラの演奏家の立場での具体的で的確な助言をいただきました。休憩中にはジュニアの子たちも気軽にいろいろなことを話し、お聞きしていたので、よい機会になったのかなあと感じています。

その他の先輩、廉めぐみさん、上田淳史さん、松原宣子さん、諏訪陽子さん、藤井智香子さんにも助けていただいております。村山文弥子さんは新潟から駆け付け、励ましてくださいました。

今回の曲目、ヘンデル「水上の音楽」組曲、ハイドン「チェロ協奏曲」、ベートーヴェン「交響曲第８番」、いずれも難しく乗り越えられなかった部分も多々ありましたが、いろんな方のお力をお借りし、何とか形になりました。次は第40回記念定期演奏会です。よい響き、よいフレーズ、心に残る音楽をみんなで創り上げる…ここに岐響ジュニアのよさがあります。先輩のお力もお借りしながら、少しでも音楽の「高み」を仲間として目指したいと思います。

▲岐響ジュニア 第39回定期演奏会

新入団員紹介

最近岐響に入団した方の中から、
４名の方に自己紹介していただきました！

４月に入団しましたバイオリンパート宮部です。入団のきっかけを作ってくれたのは職場の元同僚(岐響団員)です。よくオケの話をしましたがそんな中ちょいちょい岐響のことをアピールされてました。最初は「ふーん」と他人事のように聞いていましたが、気が付いたら本気で考えるようになってました。昨年の国民文化祭の合同演奏で共演して明るい雰囲気を知ることができたのも後押ししました。

入団後は、毎回の練習で発見や学びがあり楽しんでいます。チャイ４のパート譜に前使用者の鉛筆の書込みがびっしり残っていたのは驚きました。皆さんに教えていただきながら練習がんばります！

コントラバスの國枝朋香と申します。今年の1月から練習に参加させていただき、4月に正式に入団いたしました。

元々は中学校の吹奏楽部でチューバを吹いており、大垣南高校オーケストラ部、岐阜大学管弦楽団でコントラバスを弾いていました。岐大オケの繋がりで、コントラバスの成瀬さんやヴァイオリンのあゆちゃんに声をかけていただき、入団することを決めました。

社会人になったら楽器は弾かなくなるのかなぁとぼんやり考えていたので、こんなに大きなオーケストラで演奏させていただけることがとても幸せです。よろしくお願いします。

こんにちは。４月に入団しました、チェロの菊井文華と申します。趣味は絵を描くことで、油絵を専門に制作をしております。岐響の練習場は私の実家から近くとてもうれしいです。

高校の時、弦楽四重奏のコンサートを聴く機会があり、自分も楽器をかっこよく演奏したいと思い、大学でオーケストラに入りました。チェロは、体に響くような音色がとても癒されます。大学在学中、自粛期間で中止になってしまった演奏会でやる予定だった「眠りの森の美女」を今回演奏することができるのが感慨深いです。最近はディズニーの映画も見直しました。岐響での新しい出会いに感謝し、演奏を頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

昨年７月入団のコントラバスの林千佳代です。出産・子育て、コロナ禍の楽器無縁生活を経て「またオーケストラで弾きたいな」と思っていたところに岐響SNSでベース募集の記事が！ブランクもOK、子連れもOKという好条件に食いつかないわけにはいかず、すぐ見学に伺い、翌週には野外コンサートのステージで弾いていました(？！)。この一年、とんでもないスケジュールを遂行していく岐響恐るべし！と戦慄しながらも、お客様との距離も近く、音楽をお届けできる嬉しさは格別でした。歴史と信頼のある地域に根ざしたオーケストラだからこそと実感しています。ちなみに子どもたちは「お母さん、岐響行こう！」と、毎週私よりやる気満々です…笑